

# 算数 第2学年 たし算のしかたを考えよう / [たし算のひっ算]

## 検討会の想定問答

**指摘1:** 本時で何を明らかにするのですか。

**返し:** 中心は「位をそろえて加法の筆算を行い、繰り上がりの意味を説明する」です。本時の課題は「十の束とばらの操作を筆算に対応させ、繰り上がる数の意味を説明する」。児童が「一の位の十個を十の位の一個にまとめることが繰り上がりに当たる」という根拠を、自分の確かめ方に結び付けて説明できることを目指します。

**指摘2:** 単元全体と本時はどうつながりますか。

**返し:** 「繰り上がりのない筆算を考える」から始め、「加数を入れ替えて確かめる」へ進みます。本時では、手順や答えだけでは判断できないところを取り上げ、根拠を確かめます。既習が足りなければ、導入で必要な操作や表し方へ戻ります。

**指摘3:** この課題を選ぶ理由は何ですか。

**返し:** 「繰り上がった一は一の位の一と同じ大きさだ」という考えと、実際に確かめた結果を比較できるからです。単に誤答を訂正させるのではなく、何を見落としていたかを児童が説明する場面を作ります。

**指摘4:** つまづいた児童にはどう支援しますか。

**返し:** 十個のばらを一束に交換し、筆算の十の位へ線で結ばせる。その後、教師が説明を続けるのではなく、本人に操作した箇所を示してもらいます。同じ例を覚えてただけかを確かめるため、条件を少し変えた場面でも説明してもらいます。

**指摘5:** 評価の証拠は何ですか。

**返し:** 思①では、「一の位の十個を十の位の一個にまとめることが繰り上がりに当たる」を、用いた具体物・図・表・式のうち課題に必要な表現と対応させて説明している。正答だけで判断せず、根拠の箇所を指さす説明や、操作の途中の記録も使います。知①の習得と、理由を述べる思①を区別して記録します。

**指摘6:** 交流で何を比較させますか。

**返し:** 答えの違いだけでなく、「一の位の十個を十の位の一個にまとめることが繰り上がりに当たる」をどこで確かめているかを比較します。教師は説明の共通点と条件の違いを整理し、児童が自分の説明を直す時間を残します。

**指摘7:** 理解が進んだ児童への課題は何ですか。

**返し:** 「位をそろえて加法の筆算を行い、繰り上がりの意味を説明する」ために使った方法が、条件を変えても成り立つかを考えさせます。別の数値を速く処理するだけでなく、方法を使える条件や、使えない例を説明する方向へ広げます。

**指摘8:** 時数と本時の位置の根拠は何ですか。

**返し:** 公式の単元配当は8時間。各次の配分と第3時の位置は本資料の提案であり、公式細案の転記ではない。自校の年間指導計画と学級の既習を確認し、必要な学習を省かず調整します。

**指摘9:** 学習指導要領との対応はどこですか。

**返し:** 対応箇所はA(2)です。東京書籍の細案「学習指導要領の内容」に明記された内容項目。枝項目は原文欄に保存。用語の暗記だけにせず、課題の解決と説明の中で内容を扱います。

**指摘 10：**時間が足りないとき、何を優先しますか。

**返し：**「一の位の十個を十の位の一個にまとめることが繰り上がりに当たる」を確かめ、初めの説明を直す場面を優先します。発表する方法の数は絞っても、全員が根拠を示し、教師が思①の証拠を得る時間は残します。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

